

2027年2月期 第2四半期

決算説明資料

2026年10月9日

古野電気株式会社

注意事項：

本資料に記載されている内容は、公表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣による将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのためさまざまな要素により、記載された見通しと異なる結果となり得ることをご承知おきください。

なお、当資料の数値表記は、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表に記載の金額は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率その他の数値は、四捨五入により表示しております。

◆ 売上：増収

- 舶用事業：為替影響に加え、中国市場を中心とした機器販売の拡大により増収
- 産業用事業：ITS・GNSSおよび防衛装備品の売上拡大により増収
- 無線LAN・ハンディターミナル事業：主に文教市場向けの案件増加により増収

◆ 利益：増益

- 全事業の増収と為替効果により、粗利が大幅に増加
- 研究開発・人財への投資に伴い販管費は増加したものの、粗利の増加がこれを上回り、営業利益は大幅に増加

◆ 業績予想：上方修正

- 堅調な市場環境を確実に捉え、舶用事業を中心に販売拡大を見込む
- 下期は部品価格の上昇による利益圧迫を織り込むものの、販売拡大による増収効果がこれを吸収し、売上高・営業利益ともに過去最高の更新を見込む

※ 為替感応度（2026年2月期実績値）

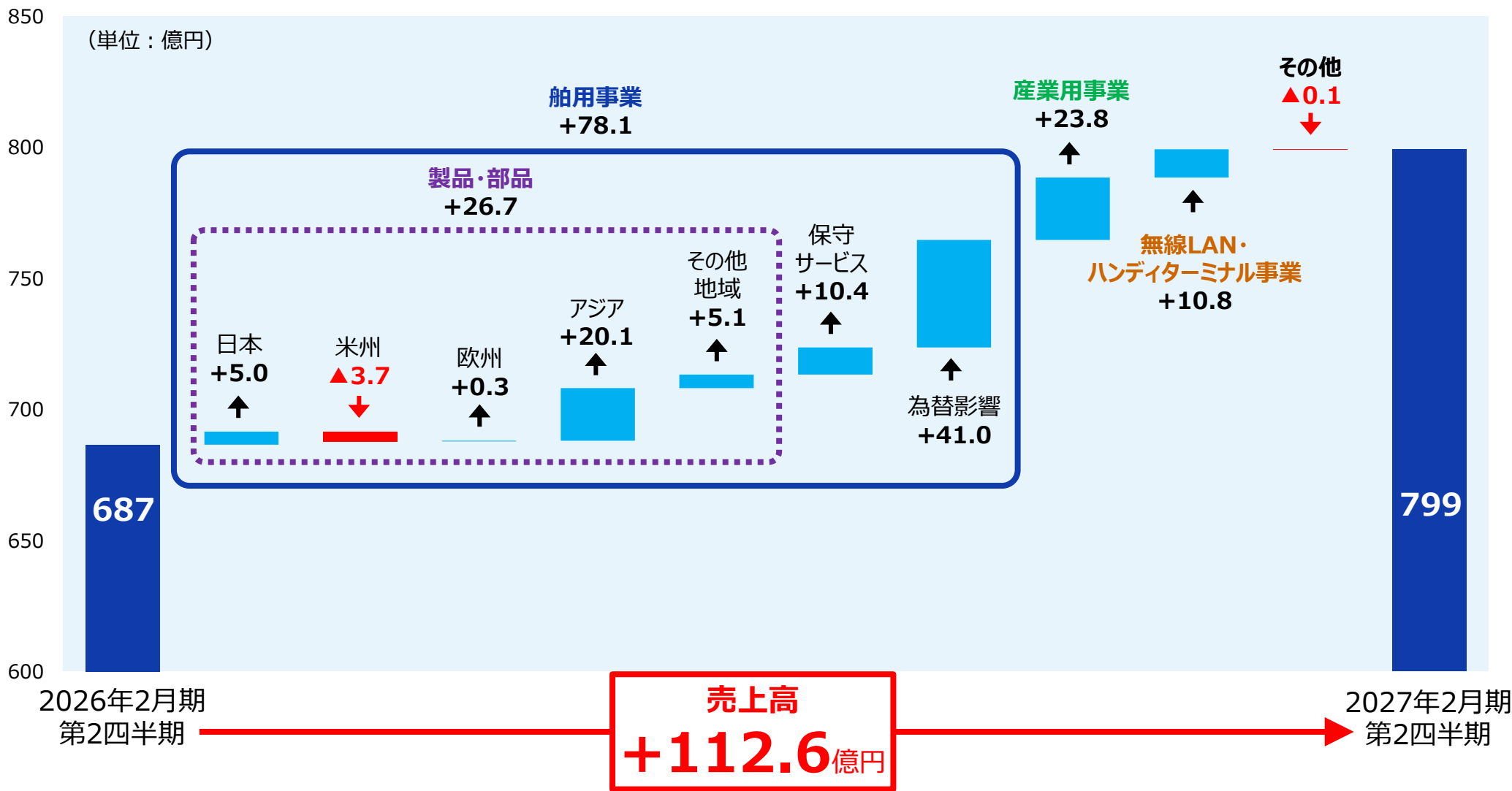
【ドル】売上高：1.4億円、営業利益：0.9億円

【ユーロ】売上高：2.7億円、営業利益：1.3億円

船用事業の好調な需要環境に加え、産業用事業、無線LAN・ハンディターミナル事業も販売が拡大。成長に向けた研究開発・人財投資に伴い販管費は増加したものの、粗利増により営業利益は大幅に増加。

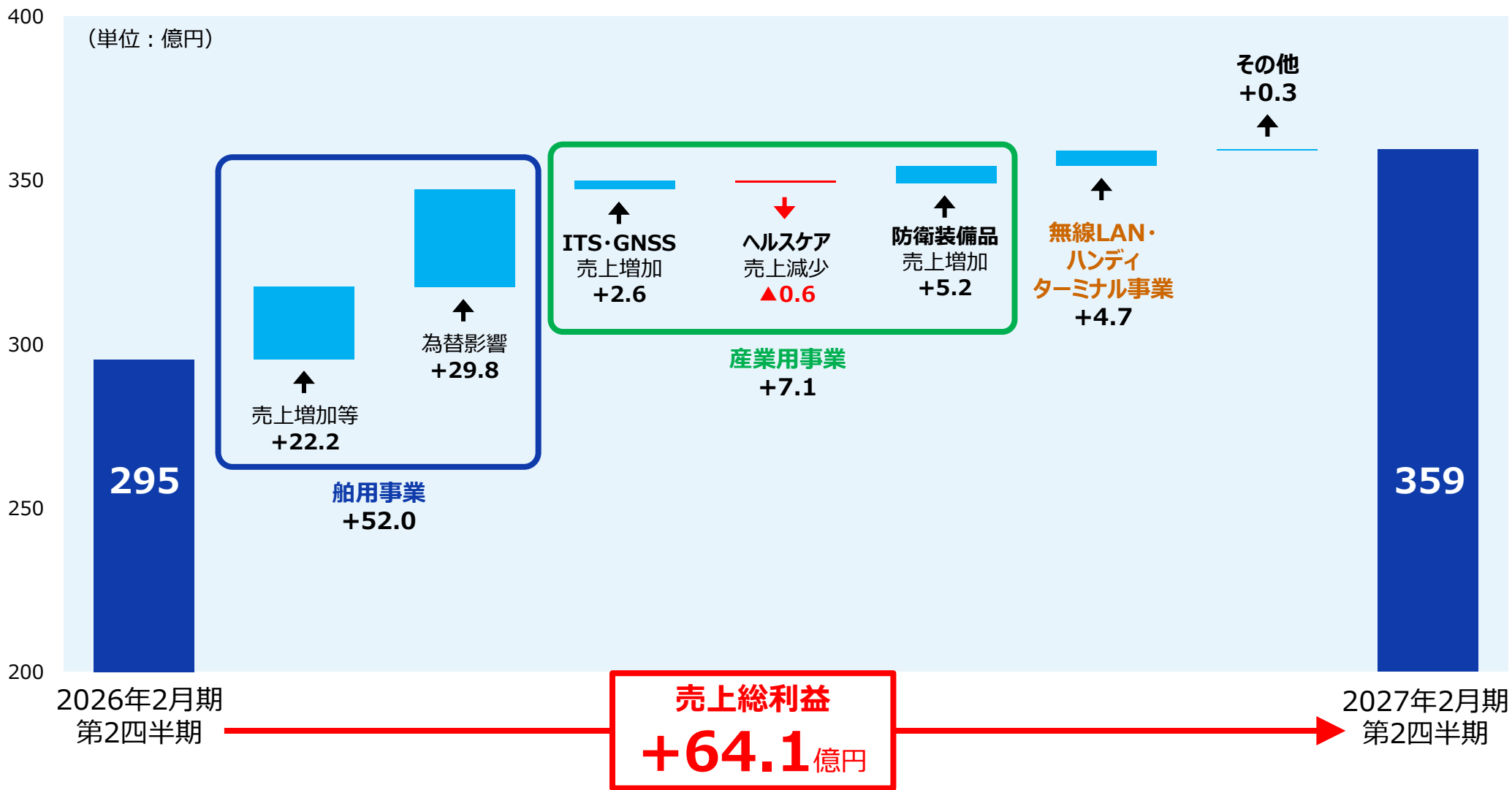
(単位：百万円)	2026年2月期 第2四半期	2027年2月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	68,653	79,917	+11,264	+16.4%
売上総利益 (対売上高比率)	29,534 (43.0%)	35,942 (45.0%)	+6,408	+21.7%
販売管理費 (対売上高比率)	20,230 (29.5%)	23,075 (28.9%)	+2,844	+14.1%
営業利益 (対売上高比率)	9,303 (13.6%)	12,866 (16.1%)	+3,563	+38.3%
経常利益 (対売上高比率)	10,169 (14.8%)	13,781 (17.2%)	+3,612	+35.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (対売上高比率)	10,190 (14.8%)	9,948 (12.4%)	▲242	▲2.4%
研究開発費 (対売上高比率)	3,007 (4.4%)	3,387 (4.2%)	+379	+12.6%
設備投資額 (対売上高比率)	2,205 (3.2%)	2,105 (2.6%)	▲99	▲4.5%
減価償却費 (対売上高比率)	1,836 (2.7%)	2,037 (2.6%)	+201	+11.0%
(単位：円、期中平均レート)				
為替 (対ドル)	150	157	+8	+5.1%
為替 (対ユーロ)	163	185	+22	+13.6%

船用事業は為替影響に加え、中国市場を中心とした機器販売の拡大により増収。
産業用事業では、ITS・GNSSおよび防衛装備品の売上拡大により増収。

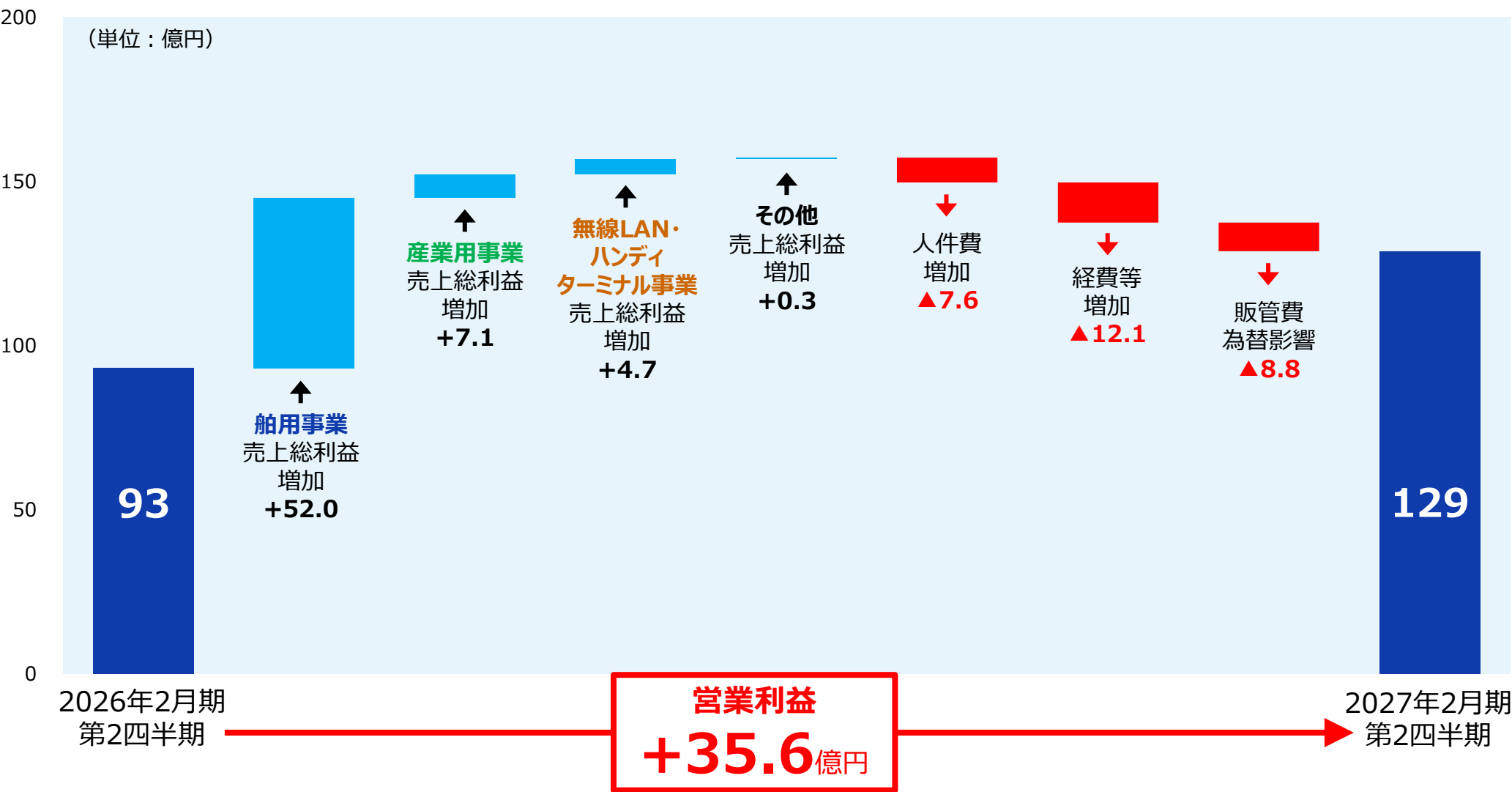


業績ハイライト：売上総利益の増減分析

船用事業は販売拡大と為替効果により増益。
産業用事業はITS・GNSSおよび防衛装備品の売上拡大により増益。

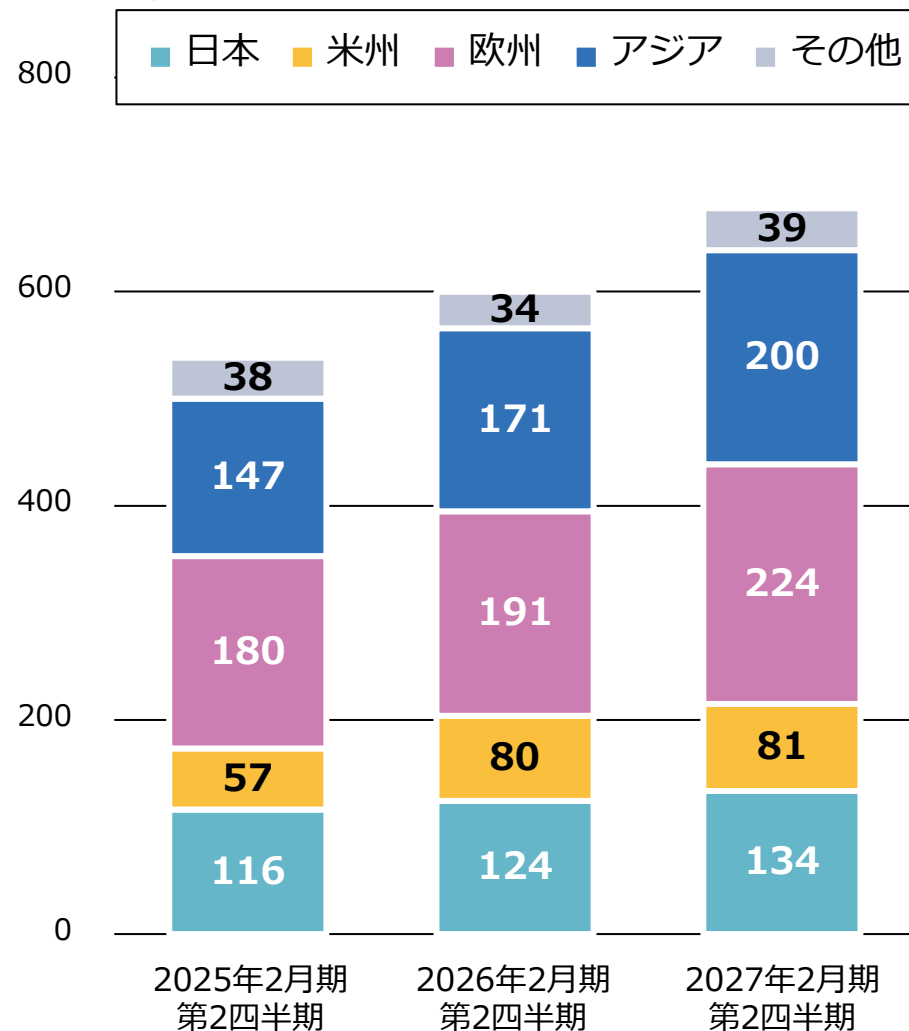


将来成長に向けた研究開発投資の強化に加え、海外における営業・サービス体制の強化や販促活動の拡充により販管費は増加したものの、全事業の増収効果により営業利益は大幅に増加。



船用事業 連結売上高（累計・地域別）

（単位：億円）



船用事業

売上高 **678**億円（前年同期比 **+13.0%**）

セグメント利益 **122.1**億円（**+27.0**億円）

- 日中韓の新造船向け販売は好調な需要環境が継続
- 保守サービス売上は、国内・海外ともに増加
- 特に欧州においては、円安の為替効果が収益に寄与

◆日本：売上高 **134**億円（**+7.6%**）

- 商船向けの機器販売が高水準で推移
- 保守サービス売上も増加

◆米州：売上高 **81**億円（**+2.0%**）

- プレジャーボート向け戦略商品の販売が寄与し、好調を維持

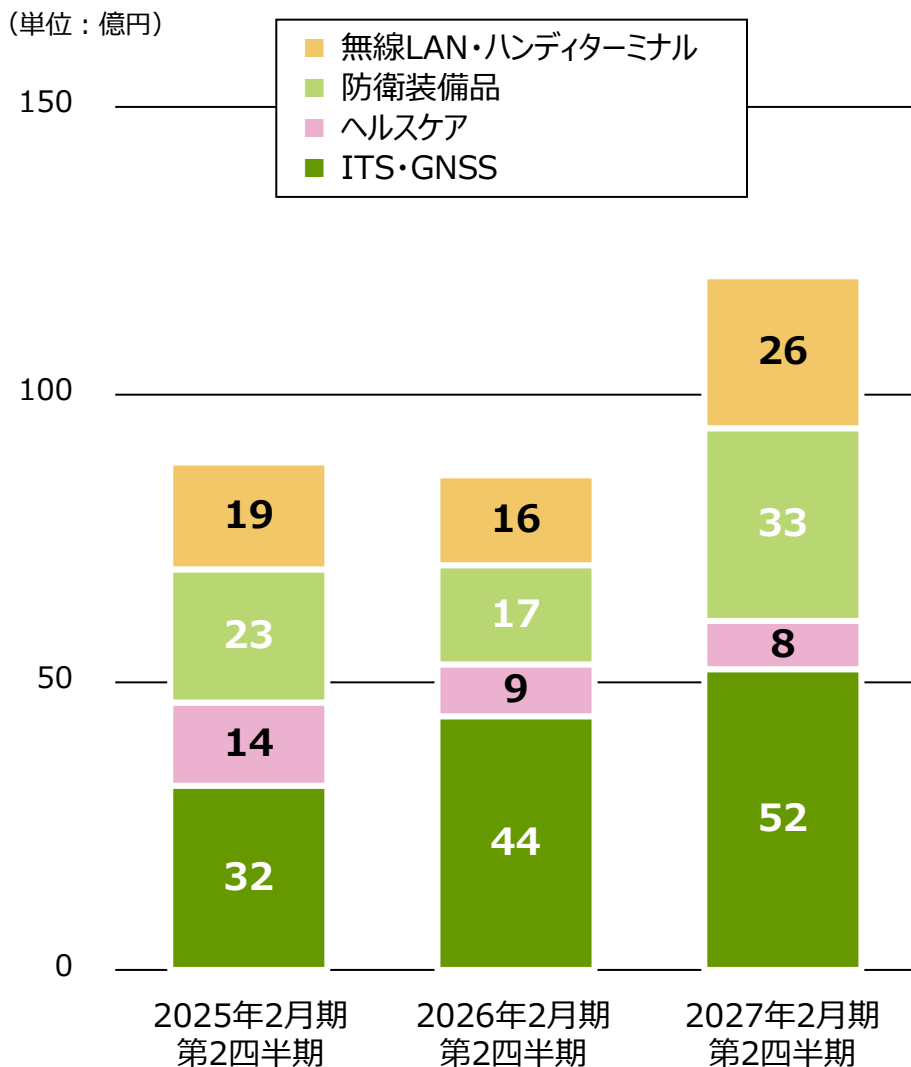
◆欧州：売上高 **224**億円（**+17.2%**）

- 商船の既存船向け機器販売が高水準で推移
- 保守サービス売上も好調に推移

◆アジア：売上高 **200**億円（**+16.8%**）

- 中国における商船の新造船向け機器販売が引き続き拡大
- 保守サービスも堅調に推移

産業用事業、無線LAN・ハンディターミナル事業 連結売上高（累計・事業別）



産業用事業

売上高 **93億円**（前年同期比 **+34.3%**）

セグメント利益 **8.2億円**（**+6.4億円**）

- ITS・GNSSおよび防衛装備品の販売が好調
- 特に防衛装備品の増収と採算改善が増益に寄与

◆ ITS・GNSS：売上高 **52億円**（**+18.7%**）

- 時刻同期製品の海外向け販売が堅調に推移
- ETC車載器等の販売も好調

◆ ヘルスケア：売上高 **8億円**（**▲7.7%**）

- 中国市場での価格競争激化の影響により販売減少

◆ 防衛装備品：売上高 **33億円**（**+94.4%**）

- 高水準の受注残を背景に、生産出来高の増加に伴い売上が拡大

無線LAN・ハンディターミナル事業

売上高 **26億円**（前年同期比 **+69.2%**）

セグメント利益 **3.6億円**（**+3.5億円**）

- 主に文教市場向け案件の増加により、無線LANアクセスポイントの販売が拡大

※参考資料：連結貸借対照表

(単位：百万円)	2026年2月期 通期	2027年2月期 第2四半期
流動資産 (現金及び預金) (たな卸資産)	102,496 (24,283) (45,056)	109,945 (26,458) (48,212)
固定資産 (有形固定資産) (無形固定資産) (投資その他の資産)	38,868 (17,957) (6,644) (14,266)	39,608 (18,400) (6,453) (14,754)
資産合計	141,364	149,553
流動負債 固定負債	34,320 17,272	34,577 16,428
負債合計	51,592	51,006
株主資本 その他 非支配株主持分	76,310 13,035 426	83,593 14,508 444
純資産合計	89,772	98,546
負債純資産合計	141,364	149,553
自己資本比率	63.2%	65.6%

堅調な市場環境を確実に捉え、舶用事業を中心に販売拡大を見込む。下期は部品価格の上昇を見込むものの、販売拡大によりこれを吸収し、売上高・営業利益ともに過去最高の更新を見込む。

(単位：百万円)	2026年2月期 通期実績	2027年2月期 前回の通期予想	2027年2月期 今回の通期予想	増減額
売上高	140,616	148,500	158,000	+9,500
営業利益 (対売上高比率)	16,246 (11.6%)	17,000 (11.4%)	21,000 (13.3%)	+4,000
経常利益 (対売上高比率)	18,291 (13.0%)	17,000 (11.4%)	22,000 (13.9%)	+5,000
親会社株主に帰属 する当期純利益 (対売上高比率)	16,735 (11.9%)	13,000 (8.8%)	17,000 (10.8%)	+4,000
為替 (対ドル)	150	153	159	+5
為替 (対ユーロ)	169	183	184	+1

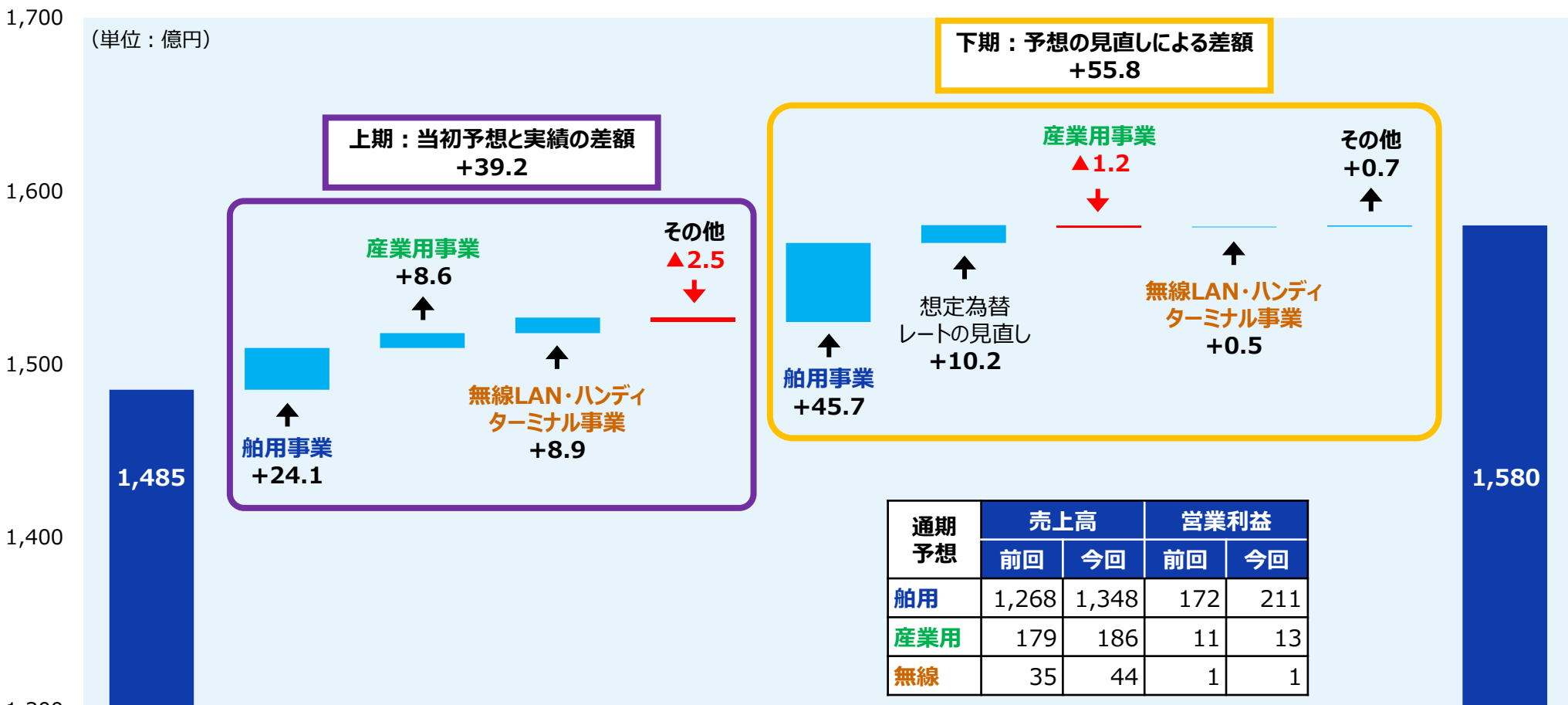
「総還元性向40%相当」の方針のもと、年間配当金を210円に引き上げる

(単位：円)	第2四半期末	期末	年間	連結配当性向
2026年2月期	75	85	160	30.2%
2027年2月期・前回の予想	80	80	160	38.9%
2027年2月期・今回の予想	115	95	210	39.0%

前回予想からの変更点：売上高

FURUNO

船用事業は堅調な需要環境の継続に加え、為替レートの見直しにより大幅な増収を見込む。
産業用事業・無線LAN事業は、上期実績が当初予想を上回ったことから通期予想を引き上げる一方、
下期は当初想定どおりの着地を見込む。



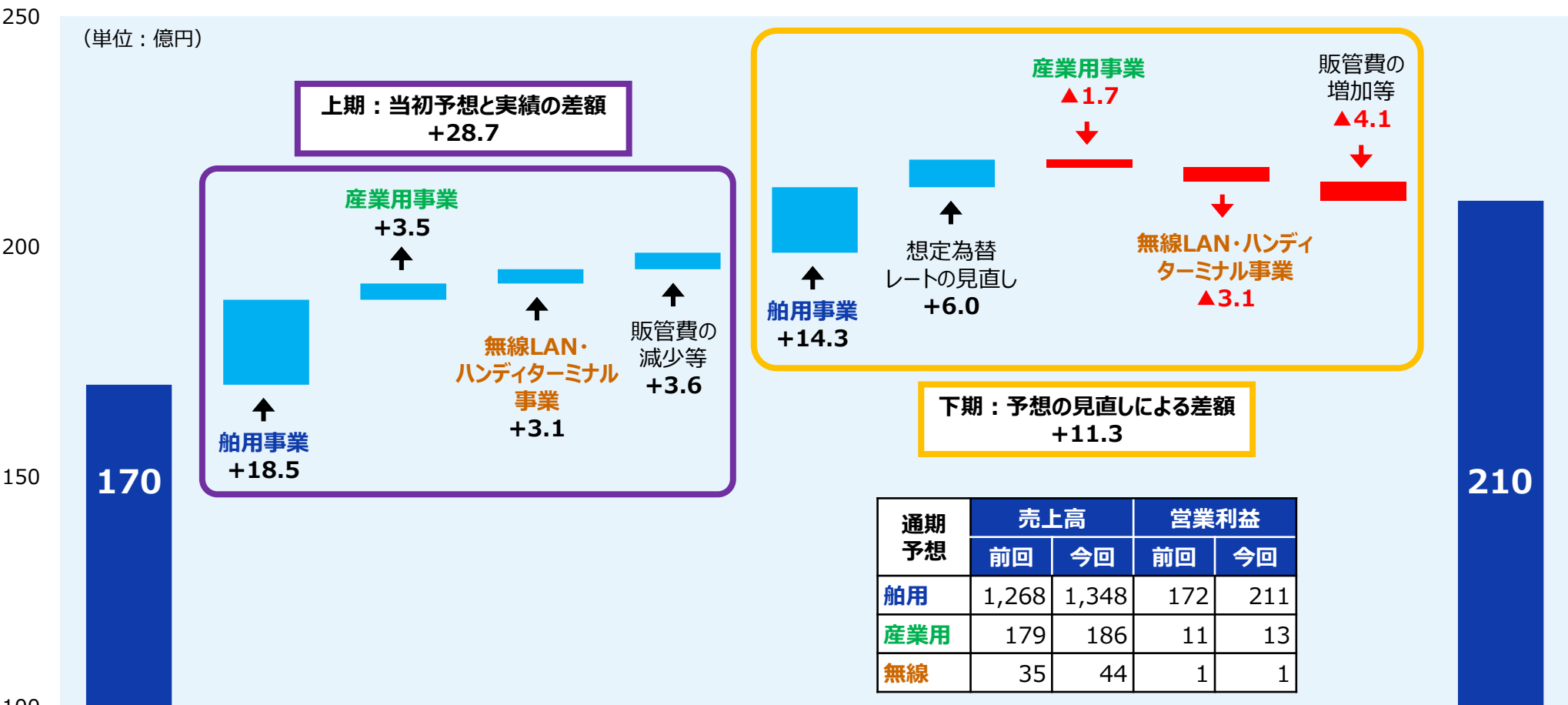
当初予想
2027年2月期
売上高

予想の上方修正
+95.0億円

最新予想
2027年2月期
売上高

前回予想からの変更点：営業利益

下期は部品価格の上昇や販管費の増加による利益圧迫を織り込むものの、船用事業を中心とした販売拡大と為替影響による増益効果がこれを上回り、営業利益210億円を見込む。



当初予想 2027年2月期 営業利益

予想の上方修正 +40.0 億円

最新予想 2027年2月期 営業利益

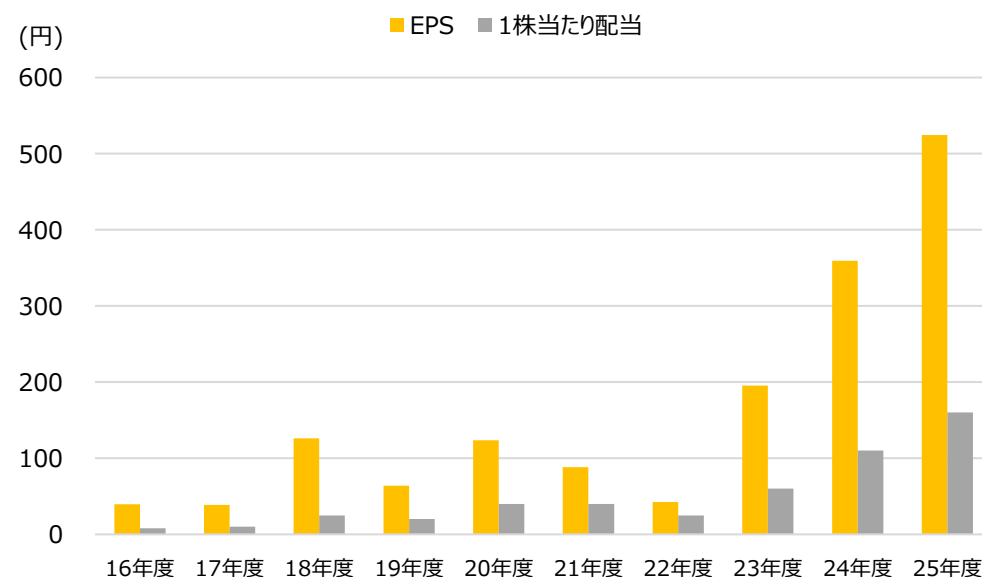
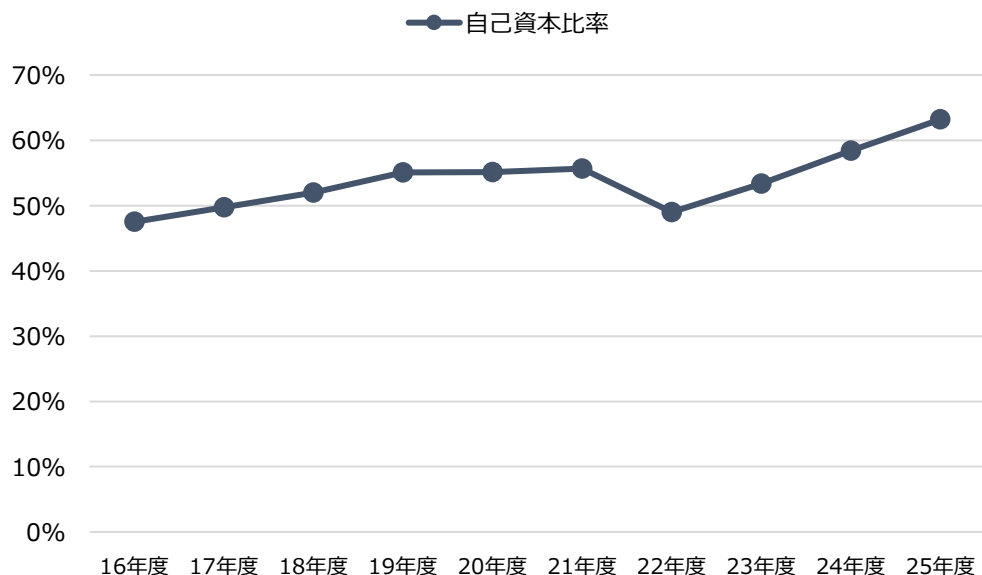
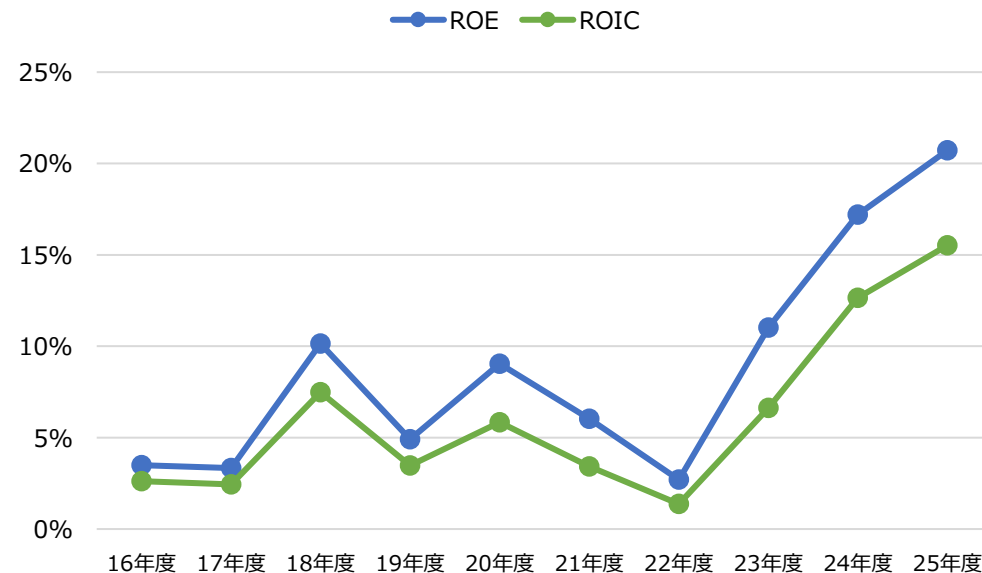
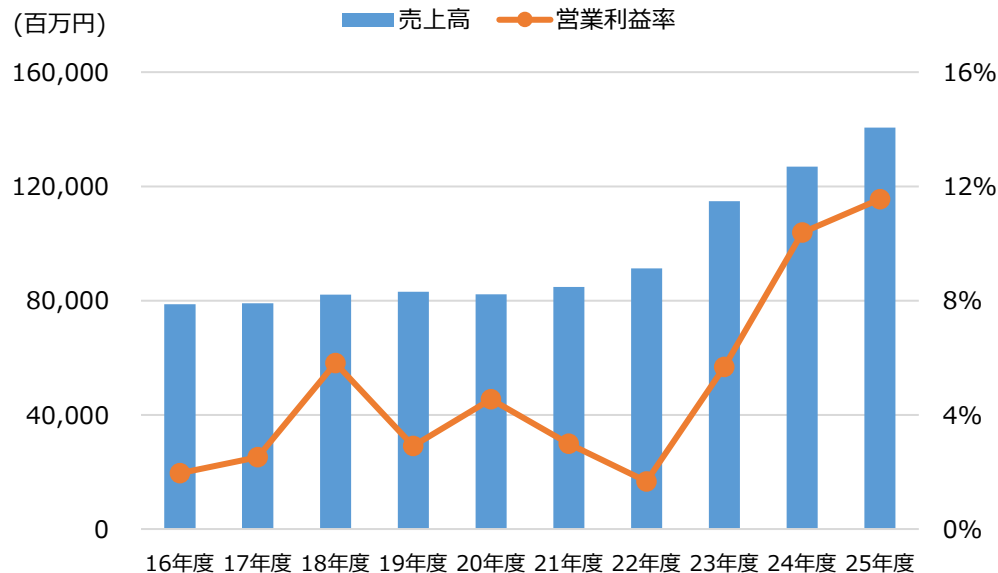
※参考資料：財務状況の推移

FURUNO

単位：百万円 *の場合は円	17/2月期	18/2月期	19/2月期	20/2月期	21/2月期	22/2月期	23/2月期	24/2月期	25/2月期	26/2月期
売上高	78,674	79,050	82,108	83,066	82,255	84,783	91,325	114,850	126,953	140,616
営業利益	1,534	1,992	4,771	2,411	3,740	2,532	1,523	6,521	13,181	16,246
営業利益率	1.9%	2.5%	5.8%	2.9%	4.5%	3.0%	1.7%	5.7%	10.4%	11.6%
当期純利益	1,262	1,236	4,026	2,041	3,946	2,814	1,348	6,238	11,457	16,735
PBR	0.6	0.6	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6	1.2	1.2	2.4
ROE	3.5%	3.3%	10.1%	4.9%	9.0%	6.0%	2.7%	11.0%	17.2%	20.7%
ROIC	2.6%	2.4%	7.5%	3.5%	5.8%	3.4%	1.4%	6.6%	12.7%	15.5%
EPS*	39.6	38.8	126.2	64.0	123.7	88.2	42.3	195.6	359.2	524.7
自己資本比率	47.5%	49.8%	52.0%	55.1%	55.1%	55.7%	49.0%	53.4%	58.4%	63.2%
1株当たり配当*	8	10	25	20	40	40	25	60	110	160

※参考資料：財務状況の推移

FURUNO



トピックス

「健康経営銘柄2026」に選定 8年連続で「健康経営優良法人（ホワイト500）」にも認定

当社は、従業員の健康増進を目指し、**健康意識の向上と安心して働ける職場環境の整備を強化**するため、FURUNOグループ「健康宣言」を制定しています。

古野電気健康宣言

私たちは、経営理念のもと従業員一人ひとりが心身共に健康で、明るく生き活きと働くことができるよう、従業員の健康意識向上と、安心して働きつづけることのできる職場環境の整備に向けた取り組みを推進していきます。

・「古野電気健康宣言」：<https://www.furuno.co.jp/csr/sociality/health.html>

当社は経営理念のもと従業員一人ひとりが心身共に健康で明るく生き活きと働くことができるよう、従業員の健康意識向上と安心して働きつづけることのできる職場環境の整備に向けた取り組みを推進しています。これらの健康経営への取り組みが認められ今回の認定に至りました。

当社では今後も、社員が健康で充実した日々を過ごせる健康経営を戦略的に実践することでさらなる組織の活性化と生産性の向上、ウェルビーイングの実現を目指してまいります。

「健康経営優良法人制度」は、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みのもと特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業などの法人を顕彰する制度です。健康経営優良法人（大規模法人部門）認定法人の中でも、健康経営度調査結果の**上位500法人のみが通称「ホワイト500」として認定**されます。



アイコム株式会社との無線機・レーダー分野における 協業開始に関する覚書締結について

FURUNOと、アイコム株式会社は、無線機およびレーダー分野における**協業開始に関する覚書を、2026年5月13日に締結**しました。本覚書は、両社がそれぞれ培ってきた技術や知見を活かし、無線機・レーダー分野における製品開発や事業活動に関する協業の可能性について協議を進めることを目的としたものです。

協業の主な内容

本協業においては、以下の取り組みを中心に検討を進めていきます。

- 無線機およびレーダー分野における製品開発に関する協業
- 関連部材・コンポーネントの共同購買を含むコスト低減施策
- 両社の知見を活かした、将来的な協業テーマの継続的な協議

なお、本覚書は具体的な取引条件等を定めるものではなく、今後の協議を通じて内容を検討・具体化していく予定です。



締結式の様子

左：古野電気株式会社 代表取締役社長執行役員 古野 幸男
右：アイコム株式会社 代表取締役社長 中岡 洋詞

・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1818&dispmid=1017

旭タンカー株式会社および山口県漁協と、 「ブルーカーボン創出」に向けた連携を開始

超音波技術を活用し、海洋環境の可視化を推進

FURUNOは、旭タンカー株式会社および山口県漁業協同組合と、**持続可能な里海づくりの推進を目的とした連携を開始**しました。本連携は、海運会社が漁業者に魚群探知機を提供し、漁業活動と両立した形で海洋環境モニタリングを行うというこれまでに例のない環境保全モデルを特徴としています。

概要

本連携に基づき、旭タンカーは藻場保全を目的に当社から魚探を購入し、藻場モニタリング用として漁業者へ提供します。山口県漁業協同組合（吉佐統括支店）は通常の漁業活動に加え、藻場が分布する海域を航行することで操業と両立したモニタリングを実施します。漁業者が日常的に海と向き合う中で得られるデータと知見を生かし、持続可能な形で継続的な観測を行います。

FURUNOは、**防府市沿岸海域を中心に魚探を通じて取得したデータを解析し、藻場の分布状況や生育状況を可視化することで海洋環境を定量的に把握する取り組みを推進**します。三者では今回の連携を通じて、環境保全と産業活動を両立させた新たなブルーカーボン創出モデルの確立を目指します。



左から）旭タンカー株式会社 常務取締役：中野 道彦、
山口県漁業協同組合 吉佐統括支店長：徳富 暁江、
古野電気株式会社 取締役 専務執行役員 兼 CMO：矮松 一磨

・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1819&dispmid=1017

MEGURI2040 第2ステージ成果を発表 実証船4隻が 国土交通省の自動運航船認証を取得【DX】

商用運航下で自動運転レベル4を実現、自動運航船の社会実装が新たな段階へ

FURUNOは、公益財団法人日本財団が推進する無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」に参画しており、2026年3月27日、同プロジェクト第2ステージにおいて**4隻の実証船すべてが国土交通省の船舶検査に自動運航船として合格し、自動運航船として商業運航を開始**したことを発表しました。

本プロジェクトの趣旨および社会的意義に賛同した国内企業53社が、DFFAS+（Designing the Future of Fully Autonomous Ships Plus）コンソーシアムを構築し、それぞれの強みを生かした技術開発および社会実装に向けた取り組みを進めてきました。当社はDFFAS+コンソーシアムに参画し、**実証船「げんぶ」、「みかげ」、「おりんぴあどりーむせと」にて自動航行計画・制御システムおよびフリート支援システムの開発**に取り組んでまいりました。



新造内航コンテナ船「げんぶ」



旅客船「おりんぴあどりーむせと」



既存RORO船「第二ほくれん丸」



既存内航コンテナ船「みかげ」

・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1805&dispmid=1017

「日本船舶海洋工学会 秋季講演会」において、海事産業に特化したオープンソース大規模言語モデル「Llamarine」に関する研究結果を発表【DX】

海事産業のDXを支える新たなAI基盤を公開

FURUNOは、昨年11月に兵庫県で開催された「令和7年 日本船舶海洋工学会 秋季講演会」において、Aitomatic, Inc.と共同開発した**海事産業特化オープンソース大規模言語モデル「Llamarine」に関する研究結果を発表**しました。

研究の概要

本研究では、その中核となる「海事産業に特化した大規模言語モデル」の開発に注力し、以下の目標を掲げました。

- 海事専門書籍・論文・規制文書を活用した高品質データセットの構築
- 海事特化言語モデルの開発とオープン公開
- 海事特有の推論能力を評価するベンチマークの策定

当社は、これらの成果をオープンソースとして広く公開することで、海事産業のDX推進と将来的なAIエージェント活用を支える基盤の構築を目指します。



・詳細 : https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1788&dispmid=1017

業界準拠の時刻同期用GNSS受信機「型式：RCB-100」発売

基地局品質のGNSS時刻同期をもっと手軽に

2026年11月より、**新製品**である業界準拠のRCBフォームファクタを採用した時刻同期用GNSS受信機「型式：RCB-100」の発売を予定しています。

背景

社会インフラ分野では、**高精度かつ妨害に強い時刻同期機能**が求められる一方、GNSS受信機の組み込みに伴う**開発・設計負荷が課題**となっていました。当社はこの課題を解決し、より多くの装置メーカーが高精度な時刻同期機能を容易に導入できるよう、本製品を開発しました。

主な特長

○基地局品質のGNSS同期をそのまま提供

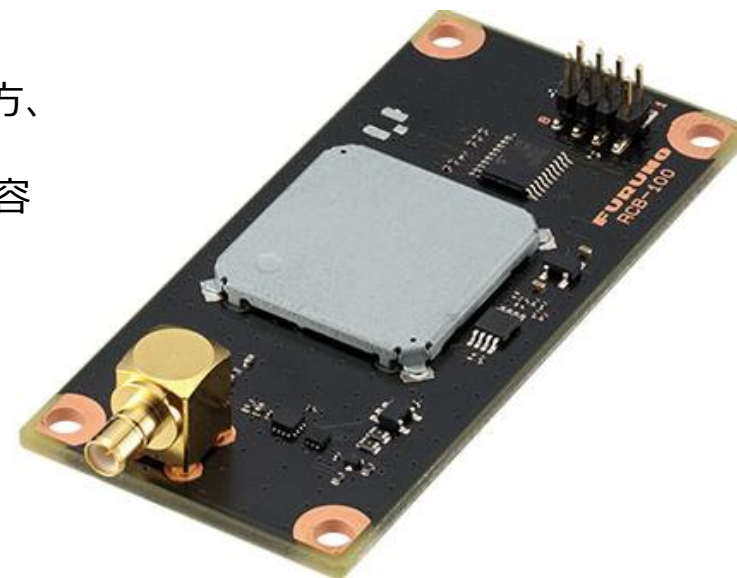
基地局・通信インフラ市場で培ったGNSS技術を継承し、**高精度**な時刻同期に加え、**ジャミングやスプーフィングへの高い耐性**を備えています。

○RCBフォームファクタ採用による高い実装性

業界基準のRCBフォームファクタを採用し、高精度かつ高信頼な時刻同期機能を容易に導入できます。

○幅広い用途への展開

高精度な時刻同期が求められるシーンでの利用を想定しております。お客様の**実装環境に寄り添った**製品ラインナップを通じて社会インフラを支える時刻同期基盤のさらなる信頼性向上に貢献してまいります。



・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1848&dispmid=1017

国内初※1

Xona社「Pulsar」のLEO PNT実信号を受信

GNSSスプーフィング試験環境下でも受信を確認

FURUNOは、米国の宇宙分野のスタートアップであるXona Space Systems, Inc.（以下「Xona社」）が展開する**次世代低軌道（LEO）衛星測位サービス「Pulsar」**の衛星から送信された信号を、2026年6月に西宮市で受信を確認しました。Pulsar衛星から送信された**実信号の受信**を確認した事例として、**日本国内では初**となります。※1

※1 国内初：当社調べ。公開情報にもとづく当社独自の確認によります。

本成果の意義

GNSSが**妨害や障害、なりすまし**にさらされた場合でも、**LEO PNT**を、**測位・時刻同期の代替・補完手段**として利用することで、重要インフラの運用継続性に大きく貢献することができます。

今回の受信評価は、その実現に向けた第一段階として、国内の通常環境およびGNSSスプーフィング試験環境において、Pulsar衛星の実信号を受信できることを確認したものです。

当社は、現代社会のGNSSへの過度な依存度を下げる有力な技術としてLEO PNTの活用を進め、**高いレジリエンスとセキュリティを備えた測位・時刻同期ソリューションの提供**を通じて、社会インフラの発展に貢献してまいります。



・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1853&dispmid=1017

海を未来にプロジェクト

海に育てられた企業として

海を未来につなげていく。



長きにわたって海に育てられてきた企業として、新たに「海を未来にプロジェクト」を立ち上げ、啓発・技術の両面から「海を好きになってもらう活動」「海を守ろうとする活動」を推進しています。

▶ 海洋都市横浜うみ博2026



2026年8月8日（土）に横浜で開催された海洋都市横浜うみ博2026に、海への貢献活動「海を未来にプロジェクト」の一環として出展しました。当日は、公式アンバサダー「さかなのおにいさん かわちゃん」による世界一楽しいおさかなクイズショー

ーに加え、海洋環境保全をテーマにした特別トークショー「海の森“ブルーカーボン”を楽しく学ぼう！」を開催しました。

▶ おさかなスクール2026夏



『好きを一緒に深めて仲間をつくり、伝える力を育てる』をテーマに、2026年7月22日（水）から9月6日（日）までの講座を通して、世界に一つだけのおさかなクイズ図鑑を制作。また今回は、神戸須磨シーワールドとのコラボレーションも実施し、イルカ・オルカトレーナーによるスペシャルトークショーを開催しました。さらに、講座の最終日には現地での発表会とあわせて「おさかな甲子園」を同時開催し、学びと成果を発表する場として特別な体験を提供しました。

FURUNOグループの事業概要

FURUNOは1948年に**世界で初めて魚群探知機の実用化に成功**して以来、船用電子機器分野において、その独自の超音波技術と電子技術をもとに数々の世界初・日本初の商品を提供し続けてきました。そして今日、**世界100カ国以上に販売拠点**を有し、**世界規模の船用電子機器総合メーカー**として確固たる地位とブランドを築いてきました。



西宮本社



研究開発棟 SOUTH WING

2026年2月28日現在

社名	古野電気株式会社
本社所在地	兵庫県西宮市
設立	1951年（昭和26年）
事業内容	船用電子機器および産業用電子機器などの製造・販売
資本金	7,534 百万円
従業員（連結）	3,411 名
売上高（連結）	140,616 百万円
代表者	古野 幸男
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場

I R 情報サイト ⇒ <https://www.furuno.co.jp/ir/>

製品情報サイト ⇒ <https://www.furuno.com/>

企業ブランドサイト ⇒ <https://www.furuno.com/special/jp/corporatemovie/>

事業領域

FURUNOの製品・サービスは
「安全安心・快適・人と環境に優しい社会・航海の実現」を
事業ビジョンに、さまざまなフィールドで活躍しています。



商船 向け事業



レーダー



ECDIS
(電子海図情報
表示システム)



衛星通信装置

漁業 向け事業



ソナー



魚群探知機



潮流計

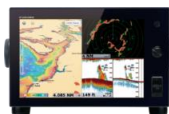


無線機器

プレジャーボート 向け事業



レーダー



マルチファンクション
ディスプレイ



GPSプロッタ魚探

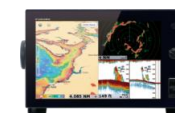


オートパイロット

ワークボート 向け事業



レーダー



マルチファンクション
ディスプレイ



GPSプロッタ魚探



オートパイロット

ITS・GNSS 事業



ETC2.0
/ETC車載器



ETC車両
管理ソリューション



GPS (GNSS)
チップ・モジュール

ヘルスケア 事業



生化学自動分析装置・試薬



超音波骨密度測定装置

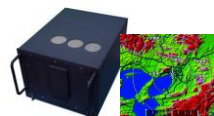
防衛装備品 事業



マルチビームソナー測深儀



GPS航法装置



マップジェネレータ
ユニット

無線LAN・ハンディ ターミナル事業



無線LAN
アクセスポイント



無線ハンディ
ターミナル



写真出典：厚木航空基地ホームページ
https://www.mod.go.jp/msdf/atsugi/gallery/index_r2.html